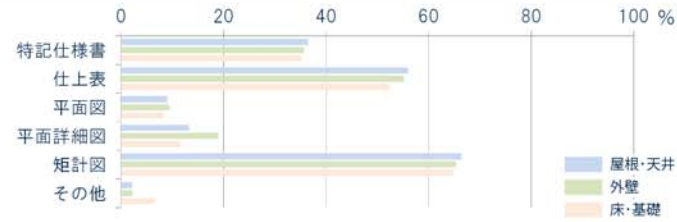


省エネ施工の情報入手先



省エネ施工に関する情報の入手先は、建材・設備メーカーの講習会やマニュアルからが多くなっています。(※1)

省エネ設計・施工に使用する図書



断熱仕様を記載する図面または現場での確認・チェックには矩計図、仕上表が多く使われています。(※3)

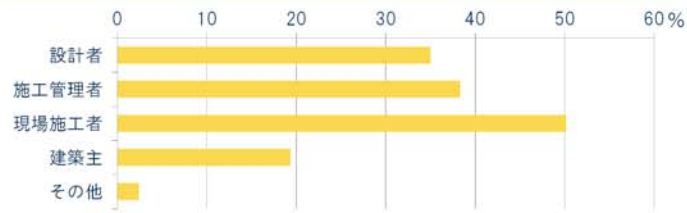
断熱性能の把握



Q値については4割弱、U値、R値については2割前後の回答者が断熱性能を把握するために計算したことがあるとしています。(※3)

(※1)平成24年度住宅省エネルギー技術・施工技術者講習、平成25年度住宅省エネルギー技術・施工技術リーダー研修、同・施工技術者講習、同・設計リーダー研修、同・設計者講習の受講者を対象とした省エネ設計・施工に関する実態調査結果より作成。集計対象34,047票。(※2)平成24年度住宅省エネルギー技術・施工技術者講習、平成25年度住宅省エネルギー技術・施工技術リーダー研修、同・施工技術者講習の受講者を対象とした省エネ設計・施工に関する実態調査結果より作成。集計対象24,802票。(※3)平成25年度住宅省エネルギー技術・設計リーダー研修、同・設計者講習の受講者を対象とした省エネ設計・施工に関する実態調査結果より作成。集計対象9,245票。

断熱住宅の普及・建設のキーパーソンは？



最適な断熱住宅の普及・建設には現場施工者の意識啓発が必要としたのは回答者の半数でしたが、省エネ設計・施工に関するどの分野にも意識啓発が必要です。(※1)

住宅の省エネルギー設計・施工の実態

平成25年度版

省エネルギー技術講習会
受講者34,047人の回答

わが国は温暖化問題や大震災を契機としたエネルギー制約に直面しており、エネルギー使用における低炭素型の社会をつくる大きな課題となっています。

早急に取り組みねばならない住宅の省エネルギー化のために、国では新築住宅・建築物の段階的な省エネルギー基準への適合化を進めており、地域の木工・工務店も省エネルギーのための適正な技術習得が求められています。

そのような背景があるなか、住宅の省エネルギー設計・施工の現在の実態を把握するための調査を実施しました。

本資料は、平成24年度及び平成25年度に全国各地で開催された省エネルギー技術講習会において回収した34,047票のアンケートの結果を概要としてまとめたものです。

国土交通省補助事業

住宅省エネルギー技術講習会(：施工技術者講習会) HP▶<http://www.shoene.org>

省エネ基準への100%適合化に向け、木工・工務店の適正な断熱施工技術等の習得のため、施工技術者講習会および設計者講習会を開いています。

講習会は全国47都道府県で開催。受講対象者は地域の木造住宅生産を担う木工技能者や断熱施工技術者、設計者で、講習は1日です。受講料：1,000円(別途、修了証代必要)



講習会

講習会



カットモデルによる講習

講習会



施工技術者講習会、設計者講習会テキスト

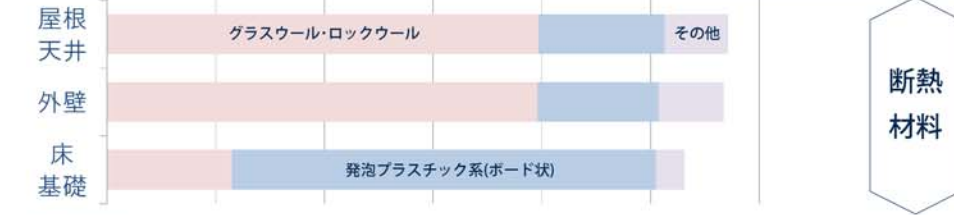
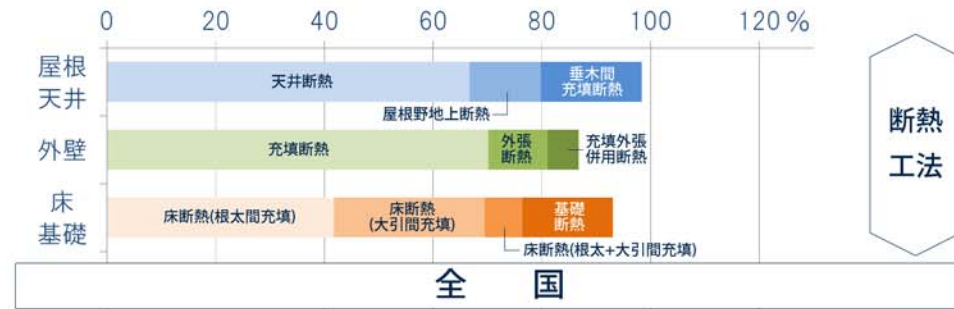
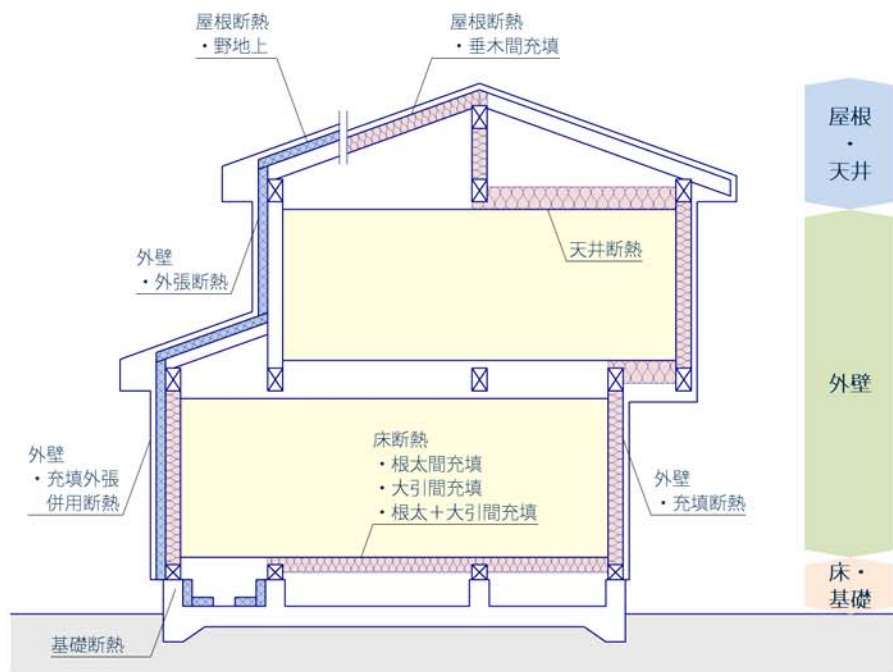
全国木造住宅生産体制推進協議会

事務局・一般社団法人 木を活かす建築推進協議会
〒107-0052 東京都港区赤坂2-2-19 アドレスビル5F
TEL.03-3560-2882 FAX.03-3560-2878 HP:<http://www.kiwoikasuu.or.jp>



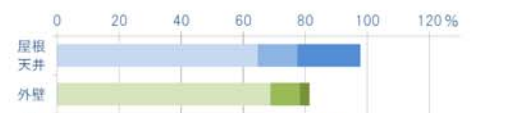
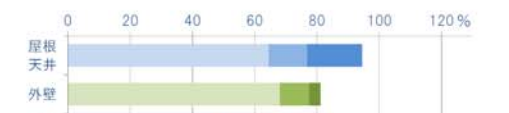
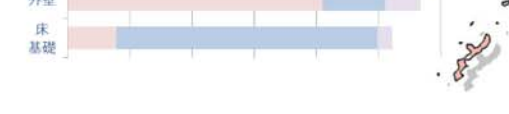
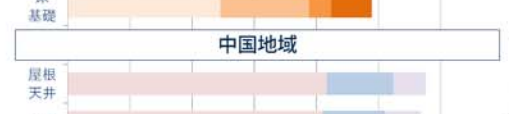
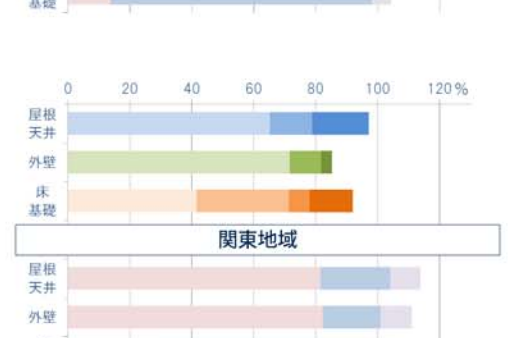
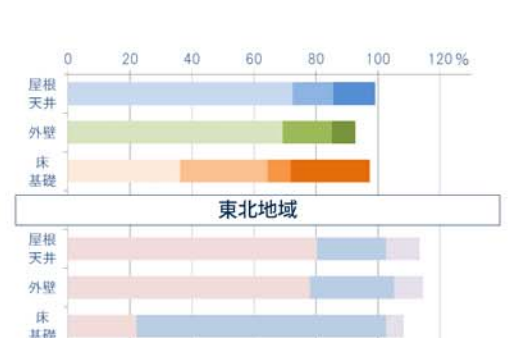
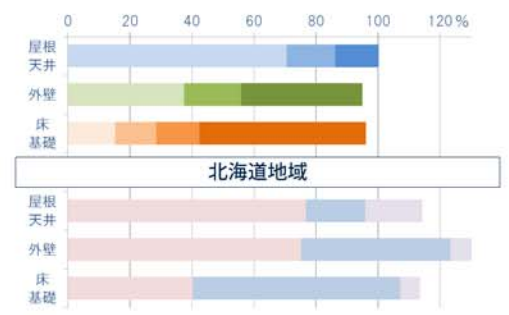
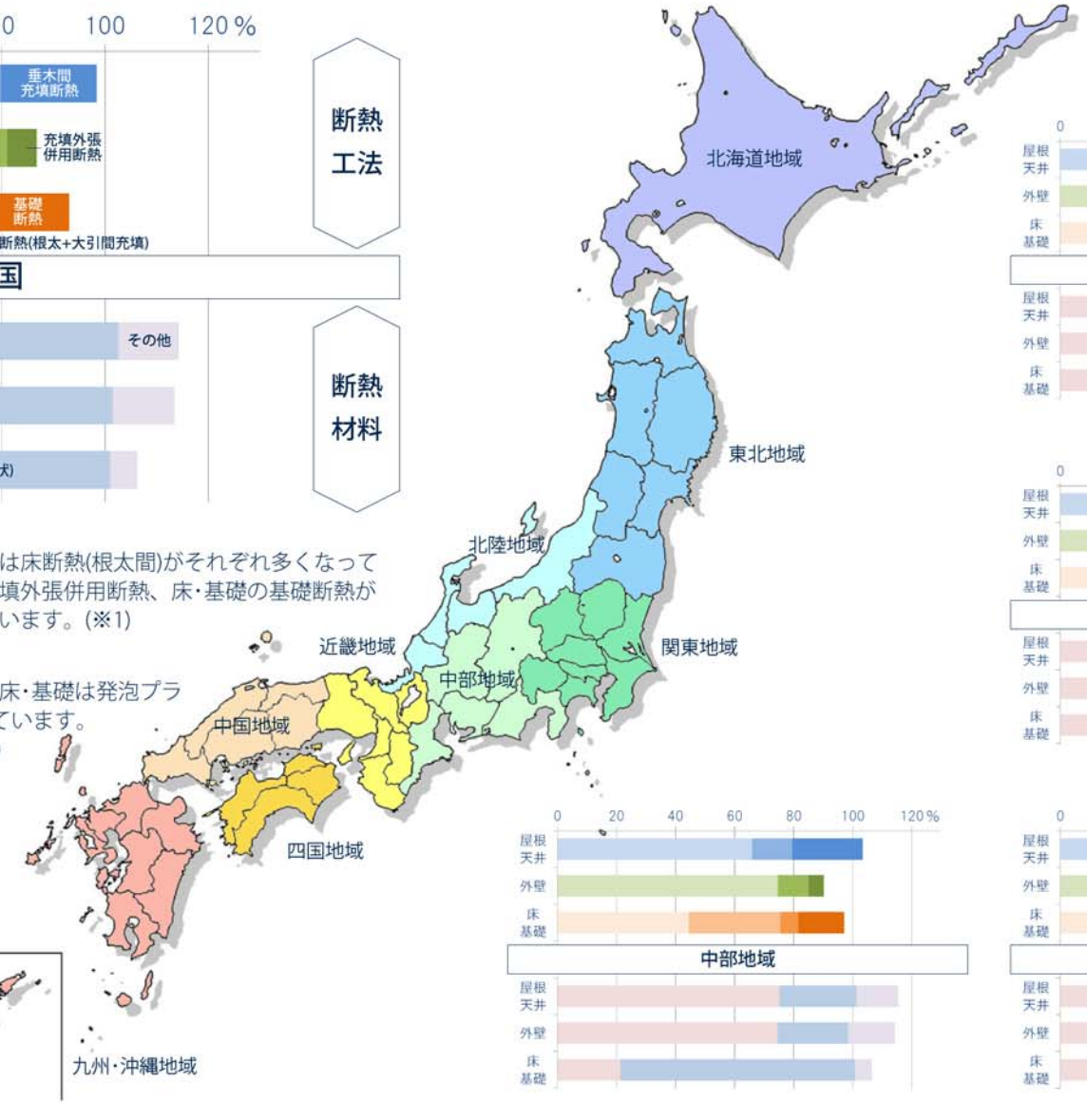
全国木造住宅生産体制推進協議会

多用されている断熱工法・断熱材料、地域毎の断熱工法・断熱材料の実態

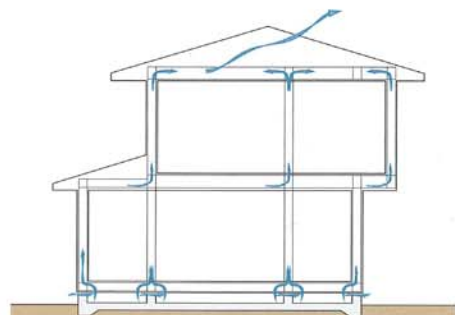


《断熱工法》
屋根・天井は天井断熱、外壁は充填断熱、床・基礎は床断熱(根太間)がそれぞれ多くなっています。地域別では北海道地域において外壁の充填外張併用断熱、床・基礎の基礎断熱がそれぞれ多くなる点で全体の結果と違いが現れています。(※1)

《断熱材料》
屋根・天井と外壁はグラスウール・ロックウール、床・基礎は発泡プラスチック系断熱材(ボード状)がそれぞれ多くなっています。地域別にみても同様の結果となっています。(※1)



難しいと感じている断熱施工



様々な断熱施工の中で難しいと感じているものは筋かい廻りの施工、気流止めの施工が多くなっています。適切に施工することが大切です。(※2)

適切な断熱施工は手間が増えるか？



断熱層・気密層・防湿層がきちんと連続し、気流止めが設置され、筋かい廻りにしっかり断熱材を充填しつつ防湿フィルムも適切に取り付けられる等の施工をする場合、普段の施工と比較して人工が増えるとした回答者は約4割、変わらないとした回答者は約2割でした。増えるという回答については平均して1.4人工増という結果でした。(※2)

目指している住宅の省エネ基準



目指している省エネルギー基準は平成11年省エネ基準(次世代省エネ基準・住宅性能表示基準等級4)以上とした回答者が約6割でした。平成4年省エネ基準(新省エネ基準・住宅性能表示基準等級3)と昭和55年基準(旧省エネ基準・住宅性能表示基準等級2)は合わせて約3割という結果でした。(※3)